

2024.10
48
あき号

うさぎの ブランコ



【開催報告】 介護職・看護職リハビリテーションステップアップ研修会

「摂食嚥下・トランスファー」「環境調整・ポジショニング」



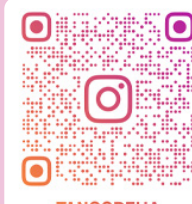
【今回の表紙】
令和6年度 看護職・介護職リハビリテーションステップアップ研修会
「摂食嚥下・トランスファー」「環境調整・ポジショニング」 詳細についてはページ参照

丹後圏域地域リハ支援センター 公式 LINE

公式 Instagram

LINE 公式アカウント
**友だち
募集中**
@513gckqy

主催研修会情報、
活動紹介等の最新情報
を発信します



TANGOREHA

令和6年度

看護職・介護職リハビリテーション ステップアップ研修会



「摂食嚥下」「トランスファー」

日時: 令和6年9月10日(火) 10:00~17:00

会場: 宮津市福祉教育総合プラザ

第1コミュニティルーム

参加者: 15名 講師: 2名

テーマ「摂食嚥下」

講師: SeatTable

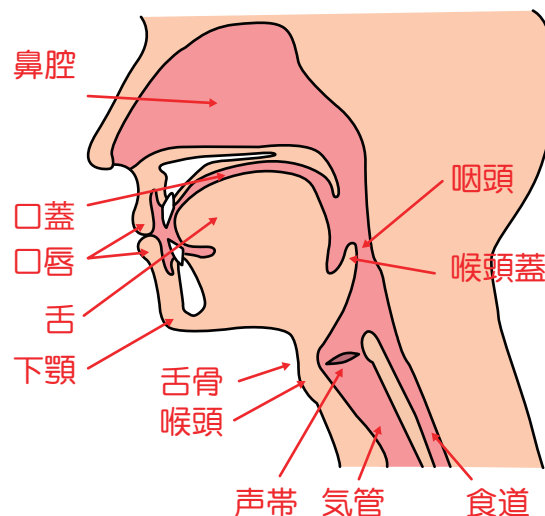
言語聴覚士 笠井 幸子氏



摂食嚥下のメカニズムや介護食(嚥下食)、食事姿勢や介助方法、口腔ケアなどについてご講義していただきました。また、とろみ体験を通して、利用者さまへ提供する「とろみ」について作り方の学習、嚥下体験を実際にさせていただきました。

摂食嚥下の5期モデル

- ① 先行期 食べ物を「認識」して口まで運ぶまで
- ② 準備期 食べ物を口に運んで「咀嚼」「食塊」をつくる
- ③ 口腔期 「食塊」をのどに送り込む
- ④ 咽頭期 「嚥下反射」によって「食塊」をのどから食道へ送り込む
- ⑤ 食道期 「食塊」を食道から胃に送り込む



介護食(嚥下食)とは

- ・ 噛む力や飲み込む力が低下し、常食を食べることが難しくなった人でも食べやすいように作られた食事
- ・ 「安全」に食べられることを前提に、噛みやすいように、飲み込みやすいように調理加工

食形態

- ・ 食べる人に合わせて調整
- ・ 安易な食形態の選択はしない→誤嚥や窒息に注意!
- ・ 特性の配慮だけでなく、五感を刺激する食事の提供も重要

とろみ体験

「とろみ」は何のために…

- ・ ゆっくりとした動きになり、液体が気管に入るのを防ぐ
- ・ 飲み物や食べ物がまとまる為、飲み込みやすくなる
- ・ おいしいとろみの付け方を学び、利用者さまへどのような飲み物を提供しているかとろみ作りや試飲の体験ができました



食事姿勢と介助方法

姿勢を整えることは、
誤嚥窒息の予防や自力摂取にもつながる

ベッド上での安定・安楽な姿勢の作り方

- ・ ずり落ちないように膝を高くする
- ・ あごが引けるように枕やタオルを入れて頭を支える



介助のポイント

- ・ 介助者の利き手が右手なら利用者の右側から介助する
- ・ 口からスプーンを引き抜く時は上唇に沿わせて行う



福祉用具貸与事業所さんに、会場での福祉用具の準備やご説明をして頂きました。
おススメの3モーター電動ベッドや跳ね上げ式車いすのご紹介をして頂きました。



協力：株式会社三笑堂宮津営業所

看護職・介護職リハビリテーションステップアップ研修会

テーマ「トランスファー」

移乗動作(トランスファー)について基本的な移乗の仕組みや、立ち上がり方法、介助方法についてご講義いただきました。また、講義・実技を通して、安全な移乗・介助方法やお互いに負担の少ない方法を体験・学習させていただきました。

講師：丹後中央病院 リハビリテーション部
理学療法士 佐藤 一喜 氏



移乗介助のポイント

移乗の手順： **座位** → **立つ** → **方向転換** → **座る** の繰り返し

立ち上がりの3カ条 ⇒ ①前かがみ ②足を引く ③座面の高さ

方向転換の2カ条 ⇒ ①両者の重心が指示面から外れない

②足の踏み替えに注意

① 車いすの位置と介助者の立ち位置

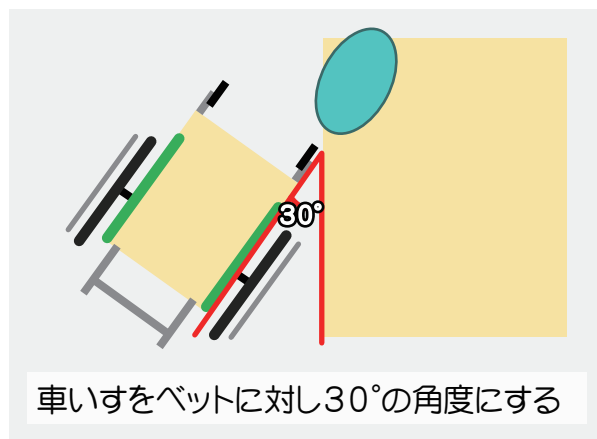
- ・ 車いすはベッドに対して30°
- ・ 介助される側のおしりを車椅子の方に少し向けておく

② 動線を考えた動き、支点づくり

- ・ 動く方向や移り方をはっきりさせる
- ・ 介助される側の膝・腰・肩に支えをつくる

③ 力ではなく、体重や全身で対応する

- ・ 手で持ち上げないで、全身で対応
- ・ 介助する側の体重を後方に移動させて、介助される側のお尻を浮かす



動作を行う場合は『声掛け』が必要

- ・ 動く・力を出す『タイミング』を伝える
- ・ どこにどのように移るのか伝える



移乗介助の実践



4グループに分かれて、参加者同士で移乗介助を行いました。
講師に指導してもらっただけでなく、参加者同士でも互いにアドバイスを行うことで、講義前よりも皆さんの移乗介助が向上できていました。

参加者の感想

他職種の方の視点や困っていることなども知れ、交流できとてもいい機会となりました。移乗では自分と患者様のことをしっかり理解し、双方の負担が少しでも少なくなるように環境調整も行いながらこれから実践していきたいです。

嚥下、とても詳しく教えていただいて本当に勉強になりました。トランスファーは自分の癖だったり、力に頼ってしまっていたこと、他にも気づけるところが多くあって、初めての方法だったり知れてこちらとても勉強になりました。

講義だけでなく、実技もあるので学びやすい。参加人数も丁度良い

摂食嚥下については、基礎的な知識だけでなく実際にとろみ水を体験できて良かったです。移乗では、自分自身が楽で安全に移乗ができる方法を学びました。患者さんの負担も考えながら、本日学んだことを活かして行きたいと思います。

嚥下もトランスファーも、とてもわかりやすく講義していただき、改めての学びとなりました。今日学んだ事を実践していき、他の職員に繋いでいくよう努めていけたらと思います。

令和6年度

看護職・介護職リハビリテーション ステップアップ研修会



「環境調査」「ポジショニング」

日時: 令和6年9月19日(木) 10:00~17:00

会場: 丹後中央病院 2F ふたばホール

参加者: 13名 講師: 2名

テーマ「環境調整」

講師: リハ・ヴィラなぎさ苑

作業療法士 高田 俊輔 氏



住環境調整の6つの視点

- ① 福祉用具を用いる ② 環境を調整する ③ 介護力を考える
- ④ 身体機能を向上させる ⑤ 動作のやり方を考える ⑥ 意欲を引き出す

環境調整に必要な事

多職種間で連携し
情報量を増やす

本人とご家族双方
を考えて調整する

起居用具を選ぶポイント

- ベッド : 利用者の体型や動作能力に合う
- マットレス : 寝返り、起き上がり、端坐位が可能な場合は**硬め**を
寝返りができない場合は**柔らかめ**を選択
- 手すり : 使用目的によって選択
車いす、ポータブルトイレに邪魔にならないように配慮する
- ベッド高さ : 安定した座位をとる場合、ベッドサイドに座り、股関節・膝関節
90°屈曲位にて足底が床面に十分につく高さ。
移乗方法や移乗用具に合わせてベッドの高さ等を調節

移乗用具を選ぶポイント

身体機能	移乗用具
立位・方向転換が可能	－ ベッド柵やてすり等
手を放しても端坐位が安定	－ トランスファーボード
つかまっていれば端坐位可能	－ 簡易移乗機、トランスファーボード
支えていなければ端坐位不可能	－ リフト移乗、二人介助で上記使用

グループワーク



今まで環境調整について困ったこと

- ・グループ内で話し合い、グループ毎に発表しました。
- ・講義を進めながら、高田講師に回答やアドバイスをして頂きました。



福祉用具貸与事業所さんに、会場での福祉用具の準備頂き、最新のベッドや車いすなどのご説明をして頂きました。



協力：株式会社相弥



協力：株式会社プラッツ

看護職・介護職リハビリテーションステップアップ研修会

テーマ「ポジショニング」



講師:しずちゃんハウス

理学療法士 岡野 光朗 氏



やりたい介護の実現のために

- ・ポジショニングの目的を知る
- ・患者様をとらえる
- ・快適な姿勢を知る
- ・良姿勢、不良姿勢を体験する

筋緊張の高まりから拘縮へ



長時間の関節固定(不動)による拘縮では、関節固定2週間後より関節軟骨の表層に変形性関節症に類似する変化が現れ、**正常関節においても、4週を越えた固定では不可逆的变化が出現する**

体験からの気づきをベースとした講義



下に体がずれた状態の体験



安楽姿勢

➡ 「座る」ということは多い『座位の姿勢を考えよう』

車いす座面のたわみを解消する
足台を置き座りやすい姿勢をつくる
患者さんの身体に合った車いすを選定する



座って生活することが増える
廃用症候群を予防できる
□から食事、座って排泄、普通の入浴を目指していく



✿ 最期までいい人生だったと思ってもらえる支援を目指して ✿

参加者の感想

実技を混じえて、分かりやすく教えて頂き今後のリハビリテーションに活かしたいと感じました。実際に患者役になってみて、除圧や体位変換の重要性を学ぶことが出来ました。

自分が実際に経験してみてわかったことがたくさんあるので今後実際に行うときに参考にしたいです。

環境調整や福祉用具については施設に居ると中々変えていくのは難しいですが、その人に合わせたより良い方法を周り相談しながら見つけていきたいです。ポジショニングでは普段、「これで良いのかな?」と思いながら仕事をしているので今回学びと体験が出来た事は凄く良かったです。

実物に触れたり、実体験をするなど、見聞だけでは知ることができないことが知れた研修になりました。できるだけ、他の職員とも共有できるようにしたいと思います。

道具や福祉用具についての知識が乏しかったので今回の講習で学ぶことができて良かったです。また、実際にポジショニングをしてもらうことで患者さんの辛さを体験できたので、少しでも楽に過ごしてもらえるように工夫していきたいです。

グループワークを通して考えたり体験したりすることが出来て、たくさんの学びがあり、丹後の同職種の方々と幅広く交流も出来、とても良い機会でした。

1



発達障害のあるこどもの リハビリテーション 支援

発達障害のこどもの支援に興味のある
リハビリテーション専門職の方に

報告

「できますよ！ みんなでしましょう！
～リハビリテーションの視点を生かして～」
市立福知山市民病院 作業療法士 山本香織氏

情報交換

参加者の各立場から、発達障害のあるこども
のリハビリテーション支援を考える

2024.11.19 [火] 17:30-19:00

2



多職種連携で支える 障害のある人の小児 期～成人移行期支援

障害のある人の支援に興味のある
多職種の方に

各立場の思い

「成人移行期支援での関わり」

京都府丹後保健所・障害者地域生活支援センターもみの木
京都府立与謝の海支援学校・マ ルートワンダーハーバー

情報交換

参加者の各立場から、障害のある人の小児期～
成人移行期支援を考える

2024.12.18 [水] 16:30-18:30

WEB開催(ZOOM使用) 無料

申込方法

左右の二次元コードでお申し込みください

申込締め切り：各開催日の1週間前



編集後記

今年度最初の「うさぎのブランコ」ができました。例年継続できている看護職・介護職におけたステップアップ研修会では昨年度と同じくらいの応募があり、当日参加者の皆さんの表情も良かったと思います。また、今年度より新たに2名の講師にお世話になりました。今後も事例検討会が計4回開催予定となっており、来年2月にはお気軽サミットも予定しています。ぜひ関わりのある分野や興味のある分野への参加だけでなく、視野を広げるために知らない分野でも参加してみたいかでしょうか？

編集/発行：丹後圏域地域リハビリテーション支援センター（公益財団法人丹後中央病院）
連絡先：TEL0772-62-8301 FAX0772-62-8302 / e-mail tango-rehabili-shien@tangohp.com

「丹後地域リハ」で検索！

